



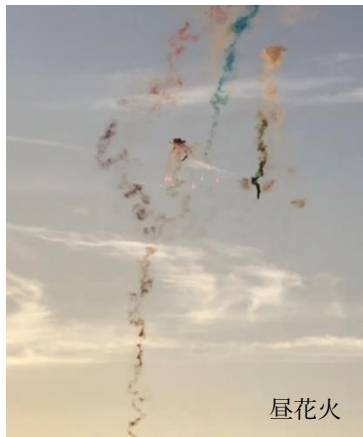
# 第21号 Jade 通信



## 【<sup>おおまがり</sup>大曲の花火大会】

夏と言ったら花火を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか？ 今回は茨城県土浦市と新潟県長岡市に並ぶ、日本3大花火の一つである秋田県の大曲の花火大会についてお話ししたいと思います。大曲の花火大会は、歴史が古く、初回開催は1910年になります。毎年8月の最終土曜日に開催され、開催場所は秋田県<sup>だいせんし</sup>大仙市大曲地区・<sup>おものがわ</sup>雄物川河川敷運動公園、打ち上げ数は15,000~20,000発と大規模なものになっています。

17時頃から開始される昼花火と、19時頃から開始される夜花火の二部制となっており、昼花火は写真左、夜花火は写真真ん中と右になります。



昼花火



夜花火



夜花火

昼花火の競技は、全国でも大曲の花火だけとなりました。夜の光の花火の代わりに、<sup>えんりゅう</sup>煙竜という、<sup>べに</sup>紅・黄・青・紫・緑などの、けむり玉を打ち上げます。見どころとしては、様々な色を駆使し、模様の多様化と色彩を鮮明に描き出す点です。

夜花火の競技は、10号玉芯入り<sup>わりもの</sup>割物を打ち上げます。芯入り割物とは、同心円状に真円を描く菊型花火です。ちなみに10号玉は、東京タワーくらいの高さです。競技では四層以上の円を描く花火が対象とされます。

10号玉芯入り割物の後は、創造花火（自由玉）です。音楽に合わせて<sup>ごうかげらん</sup>豪華絢爛花火を打ち上げます。星が長く

ゆっくり下へ垂れてくる<sup>かむろぎく</sup>冠菊や、上空で開花した後少し遅れて一斉にいくつもの花火が咲く千輪などがあります。一番の見どころは、地元大曲の提供花火です。カメラの画面に収まらないくらい沢山の花火が音楽と共に打ち上げられます。

花火大会というだけあって、それぞれ採点基準が設けられ、最も点数の高かった花火師には、花火界最高峰の賞、

「内閣総理大臣賞」が授与されます。とても素晴らしいので、是非一度、見に行ってみてください(^▽^)/

ご覧いただきありがとうございました！



## 『国営昭和記念公園のひまわりについて』

今回ご紹介する東京都内のおすすめ、ひまわり畑は立川市にある「国営昭和記念公園」です。

「国営昭和記念公園」は東京都内にあるとは思えないほど広い公園なのです！

園内ではバーベキューやプールなども楽しめるので、連日多くの人で賑わっています。

「国営昭和記念公園」のひまわり畑は「溪流広場付近のハーブの丘」と「みんなの原っぱ」の西側の花畑の2ヶ所があり、総本数約5万本あります。ひまわり畑の中には小道が整備されており、ひまわりを間近で鑑賞できるのも嬉しいポイント。また「国営昭和記念公園」のひまわりは7月末～8月下旬が見頃を迎えます。

ひまわりの他にも、1年通して色々なイベントを開催しています。園内は広いので、レンタサイクルやパークトレインを利用するのがお勧めです。アクセスは、「西立川駅」より徒歩約2分「立川駅・立川北駅・東中神駅」より徒歩約10分  
入園料：大人¥450（税込）／中学生以下無料



## 『七夕の歴史』

現在、広く認識されている「七夕の伝説」や「願い事を笹に飾る風習」は知っていますか？ 日本の七夕は、中国の「七夕伝説」やお祭り「きっこうでん」が日本から入ってきて日本古来の風習が合わさって今の形になったと言われています。

## 『織姫と彦星の都市伝説』

7月7日は織姫と彦星が1年に一度ようやく会える特別な日ということで、この七夕の日に特別な願いを託す人も多いのではないでしょうか？

七夕伝説は、昔の中国で生まれました。天空で一番えらい神様「天帝」には、「織女」という娘がいました。織女は神様たちの着物の布を織る仕事をしており、天の川のほとりで毎日熱心に機を織っていました。遊びもせず、恋人もいない織女をかわいそうに思った天帝は、天の川の対岸で牛を飼っているまじめな青年「牽牛」を織女に引き合わせ、やがて二人は結婚しました。結婚してからというもの、二人は毎日遊んで暮らしていました。織女が機を織らなくなったので、神様たちの着物はすりきれてぼろぼろになり、牽牛が牛の世話をしなくなったので、牛はやせ細り、病気になってしまいました。

これに怒った天帝は、二人を天の川の両岸に引き離してしまいました。しかし、二人は悲しみのあまり毎日泣き暮らし、仕事になりません。かわいそうに思った天帝は、二人が毎日まじめに働くなら、年に1度、7月7日の夜に会わせてやると約束したため、年に一度、織姫と彦星が会える日となりました。七夕の日は毎年雨が降っている感じがするので、来年は晴れるといいですね。



【職員より】コロナ禍の中での2回目の夏ですね。感染対策もすることが当たり前になりつつありますが、いかがお過ごしでしょうか？  
今年も、遠出は難しそうなので、Jade 通信では少しでも、おうち時間に楽しみを持っていただくということで今回の記事構成となりました。皆様のほっと一息のお供になれば幸いです。

